

SHIRO

PAPER

KOREA



4 573636 266981

Issue
December
2025

2

2 INTRODUCTION
ものづくりやお店づくりを
韓国らしい素材で、
韓国だからできる方法で

8 SEONGSU
韓国と日本の視線を繋ぐ
小さな一歩が、
未来の意識を変えていく

12 SINAN
海と人がつくる
韓国の美しい塩田で
ものづくりの原点に立ち返る





日本で培った ものづくりやお店づくりを 韓国らしい素材で、 韓国だからできる方法で

SHIROは韓国での店舗展開をさらに広げます。
街を歩き、人と対話し、都市に眠る素材を見つけ、
新たな価値へと生まれ変わらせる——。
韓国での出会いを重ねながら広がっていく、
SHIROの「お店づくり」。

Text: SHIN SASAKI

街を歩き、人と出会い、素材を探す 韓国で取り組む「捨てない」お店づくり

SHIROは日本国内に28店舗、イギリス、台湾、そして韓国にお店を構えています。それぞれのお店に独自のストーリーがあり、内装やレイアウトはすべて異なります。12月10日(水)、LOTTE WORLD MALL 1Fに韓国2号店がオープン。また 12月11日(木)からは、THE HYUNDAI SEOULでポップアップストアを開催します。ものづくりと並んでSHIROの考え方が凝縮されている、お店づくりについてお話ししましょう。

SHIROのお店づくりは、街を歩くことから始まります。そこに住む人、そこで働く人たちに話を聞き、街の歴史や暮らしぶりを調べます。フィールドワークと呼ぶこの活動を通して得た知識や、出会った人たちから刺激を受けて、どんな素材を選び、どんな空間をつくり上げていくのか想像を膨らませるのです。

もうひとつ、SHIROのお店づくりを語る上で欠かせないキーワードがあります。それは「捨てない」お店づくり。できるだけバージン材を使用しない。端材が出ないように心がけ、端材が出たら使い切る方法を考える。捨てる前に、他のお店で使用することを考える。ポップアップストアは、解体後にリユース・リサイクルしやすいように配慮して設計するなど、環境負荷を最小限にするお店づくりを実践しています。

SHIROの持続可能で美しいお店づくりを支えてくれるのは、小倉寛之さん。インテリアデザイン事務所「DRAWERS」の代表を務め、「札幌ステラブレイス店」や、SHIROの本社機能である東京オフィス、北海道長沼町にある一棟貸しの宿泊施設「MAISON SHIRO」などの設計を担当してくださいました。4月にオープンした韓国の1号店であり、旗艦店でもある「聖水店」も、小倉さんが設計を手掛けています。

気持ちよく晴れた秋の日、ブランドプロデューサーの今井浩恵が、小倉さんとプロジェクトマネージャーの高山泉さんを伴って行ったフィールドワークに、SHIRO PAPER編集部も同行しました。



変化するムンレドンで 都市に眠る資源を探す

最初に向かったのは文萊洞。政治と金融の中心地・汝矣島の北西に位置する、鉄鋼業で栄えた街です。工場移転政策と再開発により鉄工所の数が減少し続け、かつて2,000件以上あった鉄工所は、現在ではおよそ半分に減少しています。空き家となった工場に目をつけたアーティストがアトリエを構えたり、カフェやレストランにリノベーションしたり、ムンレドンは若者の街へと変化しています。そんなムンレドンで工場を構えて50年、家族経営の鉄工所「韓国鉄鋼(한국철강)」を訪ね、長女のソン・ジへさんにお話を伺いました。ムンレドンの街の様子は、この10年ほどで大きく変わったといいます。

「父が創業したこの工場を手伝うようになったのは、美術系の大学に通っていた頃。気がつけばかれこれ20年が経ちます。今、ムンレドンに集まる若者たちはこの地域の歴史をほとんど知らないかもしれません」

ソン・ジへさんにお話を伺っている隣で、小倉さんがポケットからメジャーを取り出して、次々と不揃いな金属板のサイズを測り始めました。ステンレスの端材をTHE HYUNDAI SEOULのポップアップストアで使うことを思いついたようです。切り出された部品もその端材も、同じステンレスの板から加工されたもの。しかし、一方は製品として販売され、もう一方は産業廃棄物として捨てられます。端材が廃棄物になるのか、あるいは素材として再利用されるのかは、それを手に取った人の考え次第です。

「都市には資源がたくさん眠っている」

小倉さんはそう考えています。新たに鉱山を掘らなくても、新たに森林を伐採しなくても、都市では毎日たくさんの金属や木材、プラスチックなどの資材が捨てられています。それらは廃棄物だと思われていますが、少し目線を変えれば、十分に再利用可能なのです。決してカタログには掲載されない、唯一無二の素材を見つけた小倉さんの好奇心に火がつき、「この形はストックルームの取っ手に使える」「陳列台の天板として使えそう」と、今井と会話が弾みました。後日引き取りに来る約束をして、韓国鉄鋼(한국철강)をあとにしました。



きっかけは人との出会い 何をするか、誰とするのか

少し歩いてムンレドンの一角にある産業廃棄物の中間処理場に辿り着きました。ここは鉄工団地のゴミ処理場。周囲の鉄工所からさまざまな廃棄物が持ち込まれ、分別され、次の処理場へと運ばれていきます。ここでも廃棄物の中から小倉さんが目ざとく金属のパイプを見つけ出しました。陳列什器にびったりです。そこで、粘り強く交渉しましたが、一向に話が進みません。「すでに引取先が決まっている」「そもそもこれは売り物ではない」の一点張りで、断られてしまいました。具体的にイメージが描けていたのに……。諦めきれないまま、次の目的地へ。

次に立ち寄ったボムヤンステンレス (범양스텐레스) は、創業20年ほどの家族経営の鉄工所。代表のカン・ヒョン Chol さんが、笑顔で迎えてくださいました。初めてムンレドンを訪れた時、たくさんの鉄工所を巡りましたが、私たちの目的や意図が理解されないケースが多くありました。「一体何をしに来たのか」「何を言っているか分からない」と。しかしカンさんは違いました。私たちが温かく受け入れてくださり、私たちの話に関心を持ち、快く協力を申し出てくださいました。

思い返せば、昆布やラワンぶきなど自然素材を探していた時もそうでした。漁師や農家の反応はそれぞれでした。そんな中で私たちの話に耳を傾けてくださった方々と、今でも取り引きを続けています。ボムヤンステンレスではステンレスの筒状の鋼材に出会いました。主に LOTTE WORLD MALL のお店で、一部 THE HYUNDAI SEOUL でも使用します。カンさん一家にとっては見慣れた金属パイプが、小倉さんのクリエイティブを加えて、百貨店の売場でどんな風に輝くのか、ぜひカンさんにご覧いただきたい。そして喜んでいただけたら嬉しいです。



余った塗料との思いがけない再会と 印刷団地で見つけた木製パレット

高速道路を北に向かって車を走らせ、京畿道南楊州市 (경기도 남양주시) へ。SHIRO Seongsu の壁を塗装してくださった、ウス・デザイン (우스디자인) を訪ねました。塗料の調色から、現場での塗装までを担う塗装業者です。ガレージの脇に積み上げられた一斗缶が目にとまりました。代表のナム・ジェウさんに尋ねると、工事現場で余った塗料を持ち帰り、積み上げているといいます。工事現場では、仕様変更や作業ミスを見越して、塗料を少し多く発注するのが慣例です。これは塗料に限らず建材全般に言えること。余った部材は、新品にも関わらず廃棄されてしまうこともあります。フードロスならぬ、建材ロス問題。

積み上げられた一斗缶を眺めていて、はっとしました。その中に、私たちが SHIRO Seongsu のお店づくりのためにオーダーした塗料の缶を見つけたのです。捨てないお店づくりをするはずが、知らないうちに塗料を廃棄していたことをここで初めて知るのでした。私たちはこの塗料を使い切りたいと思いました。足りない分は、積まれた一斗缶の中から、白系の塗料をいくつか探し出して補い、THE HYUNDAI SEOUL のポップアップストアの什器を塗装することにしました。さらに、これらの一斗缶自体を什器として使用します。

フィールドワークの終わり、ソウル市内に戻り、施工会社の DESIGN EYEON の作業場に立ち寄ると、運搬用の木製パレットが積み上げられていました。小倉さんが韓国有数の印刷団地である乙支路3街を歩いて見つけたもの。ウルチロサムガには、刷版工場、印刷工場、製本、型抜き、製箱など、狭い路地に小さな工場が所狭しと並んでいます。紙や印刷物を運搬するために繰り返し使用され、壊れて路上に積み上げられていた木製のパレットを引き取り、これも THE HYUNDAI SEOUL のポップアップストアで、什器として使用します。





韓国と日本の視線を繋ぐ 小さな一歩が、 未来の意識を変えていく

4月にオープンした SHIRO Seongsu。たくさんの方々にご来店いただき、ソンスの街の風景に少しずつ溶け込んでいるようです。すっかり寒くなったソウル。2階のベランダで育つハーブを選び、お気に入りのフレグランスをつくるハーブブレンダーラボは、冬季運用に入ります。多くの方々との出会いがあって実現した韓国1号店。その中でも、お店の工事を担当してくれた、DESIGN EYEONの存在は、SHIROらしいお店を韓国でつくる上で必要な存在でした。代表のルークさんことファン・ジニョンさんと、チョ・ジョンへさんにお話を伺いました。

「SHIRO Seongsuで私が気に入っているのは、エントランスを入って右手にある陳列棚です。レンガを焼く時に使われる土台を積み上げた、本来捨てられるものが生まれ変わった一例です」

SHIROが初めてDESIGN EYEONにコンタクトを取ったのは、2024年9月。連絡を受けたルークさんは、迷わず参加することを決めたといいます。SHIROにとっての韓国初のお店と聞き、面白いプロジェクトになると確信したのです。当初は、廃材を使ったり、捨てないことにこだわったりするなど、手間と時間が掛かるSHIROのお店づくりに戸惑いましたが、ミーティングを重ね、日本のSHIROのお店を見たりするうちに、図面だけでは理解しきれなかったお店づくりの考え方が理解できたといいます。そこからは会話がスムーズに進むようになりました。

「SHIROの設計は、時間も、手間も、お金も掛かります。小さな取り組みかもしれませんが、消費者の意識を変え、やがて大きな変化に繋がるのではないのでしょうか」

EYEONという社名は、英語の「eye」と韓国語の「yeon」を組み合わせた造語です。「視線」を「繋ぐ」という意味。韓国と日本の視線、EYEONとSHIROの視線を繋げ、新しい価値観を提供するお店をつくり続けます。





海と人がつくる 韓国の美しい塩田で ものづくりの原点に立ち返る

新たな素材を探すために、
韓国南西部の島、新安^{シナン}を尋ねました。
海と人がともに生きる塩の町。
塩田の美しい光の前で、SHIROは
「ものづくり」の原点を見つめました。

Text: HIDEKAZU IZUMI
Photograph: SHUNOSUKE ASAYA

人と自然が呼吸を重ねる 観光地ではない韓国の美しさ

なんて美しい風景だろう。目の前に広がる塩田を見て、編集部のメンバーたちは言葉を失い、夢中でカメラのシャッターを切っていました。2025年5月、SHIRO PAPER編集部は韓国・新安^{シナン}を訪れました。韓国の素材に出会うためです。シナンは韓国の南西部、全羅南道^{チョルラナムド}と呼ばれるエリアの海に浮かぶ島。大小1,000を超える島々から成る群島です。ソウルからは地方都市である木浦までKTX（韓国の新幹線）で2時間半。さらにそこからフェリーで2時間。観光地として訪れる人は多くなく、モッポに到着してからは日本の観光客に出会うことは一度もありませんでした。長時間をかけて辿り着いたシナンは、観光地の華やかさではなく、人の営みと自然が静かに呼吸を重ねるような美しい島でした。

韓国にお店をオープンし、SHIROが韓国と繋がろうとしているのは、お店づくりの側面だけではありません。ブランドの根幹にある「素材と人」にも、新しい関係を築こうとしています。その最初の試みとして選んだのが、シナンの天日塩です。海水を太陽と風の力でゆっくりと乾かす伝統製法の塩で、韓国では「神がくれた塩」とも呼ばれるほど。まろやかで甘みがあり、料理人からの評価も高い素材です。この出会いの始まりは、SHIROが運営するPodcast「TABI SHIRO」でした。番組を聴いてくださっている韓国在住のリスナーさんが、「韓国には美しい塩の島がある」としてシナンの名前を教えてくれたのです。

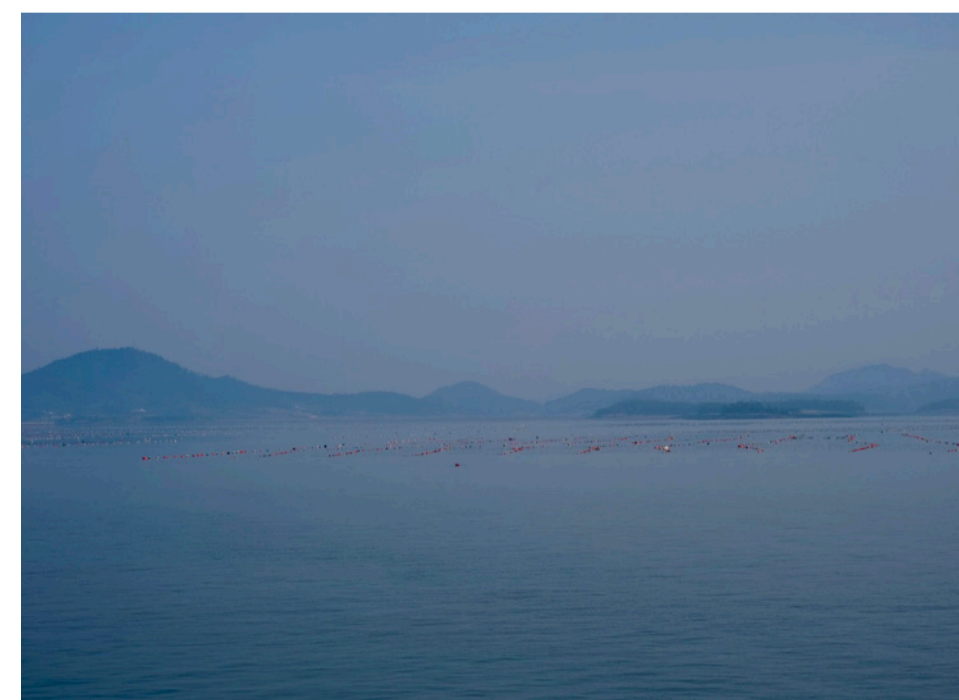


美しい島の悲しい事件 事実を「自分たちの目」で確かめに

しかし、この美しい島には、かつて悲しい事件がありました。10年ほど前の2014年、シナンの一部の塩田で、障がいのある人たちが劣悪な環境で働かされていたことが報じられました。夜明けから日暮れまで働いても賃金は支払われず、外に出ることも許されなかった。その報道は「新安塩田奴隷労働事件」と呼ばれ、韓国社会に大きな衝撃を与えました。事件をきっかけに、政府や自治体が監視体制を強化し、労働環境の改善が進められました。チョルラナムドは塩田を定期的に巡回する制度を設け、人権教育や労働契約の義務化が始まりました。シナン郡でも再発防止の条例がつけられ、かつての現場で働いていた人たちが再び安心して暮らせるよう、少しずつ環境が整っていったといいます。

ただ、その後も人権侵害にまつわる情報は無くなっておらず、事件から10年以上が経過した今でも「まだ改善されていない」という意見もあります。同時に、すでに改善されているのに、事実ではない情報の影響で風評に苦しむ生産者がいるとの声も耳にしました。報道では分からないことが、たくさんあります。だからこそ、現地に向かうことを決めました。塩づくりを続けてきた人たちの姿と現実を、自分たちの目で確かめたかったのです。

シナンに向かうフェリーの出発は朝5時。船内では、塩田で働く人たちがマットに身を横たえ、静かに眠っていました。短い休息を取るその姿に、働く時間の長さや海の暮らしを思いました。私たちが同じ床に腰を下ろし、波の揺れに身を任せていると、シナンのひとつの島、シンウィ島に到着しました。



「正直に言いますね」 塩田の生産者が語ったこと

港に降り立つと、空気が少し重たく感じられました。これから向かう塩田が、かつて人権侵害の舞台になっていたかもしれない。そんな緊張が、編集部の誰の胸にもありました。もし今も問題が続いているなら、きつと取材を拒まれるだろう。あるいは、歓迎されないどころか、何か良くないことが起きるのではないかと。そうした不安を抱えながら、いくつかの塩田を訪ねました。

しかし、実際はまったく違いました。どの塩田でも私たちを温かく迎え入れてくれました。白く輝く塩田は美しく整い、倉庫では採れたばかりの塩を触らせてもらうこともできました。訪れた塩田のひとつが「ホソン塩田」です。現在の当主は3代目のハン・ヒョンジュンさん。40代と若く、父のハン・ホソンさんと二人三脚で塩づくりを続けています。塩田についての説明を受けたあと、人権問題についても聞いてみました。ヒョンジュンさんは、静かな口調で語ってくれました。

「正直に言いますね。嘘はつきません。私たちの塩田でも、祖父の時代には確かに人権侵害がありました。海外との価格競争の中で、人件費を抑えるために、してはならないことをしてしまいました。でも、事件以降は変わりました。作業の機械化も進み、少人数でも運営できるようになりました。今は、ほとんど家族だけで運営しています」

実際にこの日、作業していたのは弟さんや親族の方々。繁忙期や収穫日は臨時雇用のスタッフの手も借りると言いますが、人権侵害にあたる労働は一切ないと断言していました。



「ものをつくる」とは 背景のすべてに責任を持つこと

私たちが見た景色の中に、「人権侵害」や「強制労働」という言葉はありませんでした。働く人たちの表情は穏やかで、一つひとつの作業が丁寧になされていました。しかし、それですべてを分かったわけではありません。一部の塩田では、今も厳しい現実が残っているかもしれない。あるいは、今は問題がなくても、再び同じことが起きないとも限りません。だから私たちは、シナンをあとにして帰国後、ホソン塩田の塩をSHIROの新しい素材として迎え入れる前に、第三者である韓国の人権活動団体に現地調査を依頼しました。その結果、労働環境に問題はないことが確認されました。今後も定期的にモニタリングを行う予定です。それは、生産者を疑うためではなく、SHIROとして、人権侵害を決して許さないという意志の表れです。良い面だけを見るのではなく、光の裏にある影にも目を向けること。そこから逃げずに、誠実に関わり続けること。それが、ひとつの国と繋がるということだと思えます。

ホソン塩田の天日塩を、どのような形で皆さんにお届けできるか。私たち自身も、その日を楽しみにしながら準備を進めています。天日塩は、ただの素材ではありません。海の力と人の手がつくり出す、時間そのものの結晶です。その一粒には、この島で働く人たちの暮らしが宿っています。製品としてお届けするということは、その背景をまるごと受け取り、次の誰かに手渡すということでもあります。国境を越えて生産者と信頼を育み、その想いを通じてお客様と繋がっていただけること。その繋がりの中で、私たちは改めて「つくる」ことの意味を考えました。ものをつくるとは、美しい面だけを見るのではなく、背景のすべてに責任を持つこと。それこそが、SHIROが大切にしてきた「ものづくり」の原点です。





THE HYUNDAI SEOUL の
ポップアップストアのオープンにあわせ、
韓国限定の香り「スズラン」から
新たに3つのアイテムをお届けします。

12/11(木) THE HYUNDAI SEOUL のポップアップストア
では、韓国限定「スズラン」の香りのアイテムをどこよりも
早く発売いたします。アイテムは、韓国で多くの皆様にご愛
用いただいている「オードパルファン 10mL」と「ボディミ
スト」、「ハンド美容液」です。ぜひ、韓国で「幸福を運ぶ花」
として知られ、大切な人へ願いを込めて贈られる「スズラン」
の香りを新たなアイテムでもお楽しみください。

※ポップアップストア終了後、「スズラン」の3アイテムはSHIRO SeongsuやSHIRO LOTTE WORLD MALL、韓国国内の各種オンラインストアでも販売いたします。

SHOP LIST

北海道

SHIRO 砂川本店	北海道砂川市豊沼町54-1 みんなの工場内
SHIRO 札幌ステラブレイス店	北海道札幌市中央区北5条西2-5 JR タワー 札幌ステラブレイス センター B1F

関東

SHIRO 表参道本店	東京都渋谷区神宮前5-2-7 2F
SHIRO BEAUTY 表参道本店	東京都渋谷区神宮前5-2-7 B1F
SHIRO ルミネエスト新宿店	東京都新宿区新宿3-38-1 ルミネエスト新宿 B1F
SHIRO 伊勢丹新宿店	東京都新宿区新宿3-14-1 伊勢丹新宿店本館1階=イセタンビューティー コスメティックス
SHIRO 丸ビル店	東京都千代田区丸の内2-4-1 丸ビル B1F
SHIRO 銀座三越店	東京都中央区銀座4-6-16 銀座三越 地下1階 ギンザコスメワールド
SHIRO 渋谷 PARCO店	東京都渋谷区宇田川町15-1 渋谷PARCO 1F
SHIRO +Q (プラスク) ビューティー 渋谷スクランブルスクエア店	東京都渋谷区渋谷2-24-12 渋谷スクランブルスクエア ショップ&レストラン6階
SHIRO 渋谷ヒカリエ ShinQs 店	東京都渋谷区渋谷2-21-1 渋谷ヒカリエ ShinQs 1F
SHIRO ルミネ池袋店	東京都豊島区西池袋1-11-1 ルミネ池袋 B1F
SHIRO 玉川高島屋 S・C 店	東京都世田谷区玉川3-17-1 玉川高島屋 S・C 南館1F
SHIRO ルミネ北千住店	東京都足立区千住旭町42-2 ルミネ北千住 3F
SHIRO ルミネ横浜店	神奈川県横浜西区高島2-16-1 ルミネ横浜 1F
SHIRO ルミネ大宮店	埼玉県さいたま市大宮区錦町630番地 ルミネ大宮店 ルミネ2 3F
SHIRO/TIAT DUTY FREE BEAUTY	東京都大田区羽田空港3-4-2 第2ターミナル3階 国際線出国エリア内

中部

SHIRO タカシマヤ ゲートタワーモール店	愛知県名古屋市市中村区名駅1-1-3 タカシマヤ ゲートタワーモール 6F
SHIRO ジェイアール名古屋タカシマヤ店	愛知県名古屋市中村区名駅1-1-4 ジェイアール名古屋タカシマヤ 3F 化粧品

近畿

SHIRO 大丸京都店	京都府京都市下京区四条通高倉西入立売西町79 大丸京都店1F
SHIRO ルクア イーレ店	大阪府大阪市北区梅田3-1-3 ルクア イーレ 2F
SHIRO 阪急うめだ店	大阪府大阪市北区角田町8-7 阪急うめだ本店 3F HANKYU BEAUTY
SHIRO 大丸心斎橋店	大阪府大阪市中央区心斎橋筋1-7-1 大丸心斎橋店本館1F
SHIRO 大阪タカシマヤ店	大阪府大阪市中央区難波5-1-5 高島屋 大阪店 1階化粧品売場
SHIRO 大丸神戸店	兵庫県神戸市中央区明石町40番地 大丸神戸店 本館 1F 化粧品

中国・四国

SHIRO ミナモア広島店	広島県広島市南区松原町2-37 ミナモア 2F東
---------------	--------------------------

九州

SHIRO 岩田屋店	福岡県福岡市中央区天神2-5-35 岩田屋本店 本館1階=化粧品
SHIRO 博多阪急店	福岡県福岡市博多区博多駅中央街1-1 博多阪急 1F 化粧品

Taiwan

SHIRO 新光三越台北信義新天地A11店	台湾台北市信義區松壽路11號1樓
-----------------------	------------------

South Korea

SHIRO Seongsu	57, Yeonmujang-gil, Seongdong-gu, Seoul, Korea
SHIRO LOTTE WORLD MALL	1F, 300, Olympic-ro, Songpa-gu, Seoul, Korea

UK

SHIRO Monmouth Street	Ground Floor, 63 Monmouth Street, London, UK
-----------------------	--

SHIRO
PAPER

KOREA Issue 2

発行：株式会社シロ

お問い合わせ

TEL: 0120-275-606

MAIL: info@shiro-shiro.jp

編集長：今井浩恵

Editor in Chief: Hiroe Imai

クリエイティブ・ディレクター &
表紙写真：佐々木信 (3KG)
Creative Director &
Cover Photograph: Shin Sasaki

ライター：泉秀一

Writer: Hidekazu Izumi

フォトグラファー：麻谷柁乃介

Photograph: SHUNOSUKE ASAYA

発行人：福永敬弘

Publisher: Takahiro Fukunaga

グラフィックデザイナー：石田愛実 (3KG)
Graphic Designer: Manami Ishida

編集：河合裕子

Editor: Yuko Kawai

翻訳：SE International SHIRO チーム

Translation:

SHIRO Team of SE International

Thanks to :

ソン・ジヘ / 韓国鉄鋼の皆さん /
カン・ヒョンチョル / ポムヤンステンレスの皆さん /
ナム・ジェウ / ウス・デザインの皆さん /
ファン・ジニョン / チョ・ジョンヘ / 諸岡智美 /
ハ・ユジョン / チョン・ヨンファン / イ・ギリム /
キム・スア / ドンヘンの皆さん /
ハン・ヒョンジュン / ホソン塩田の皆さん /
オリン産業の皆さん / 六兄弟塩田の皆さん /
小倉寛之 / 高山泉 / 北崎千鶴
(敬称略・順不同)

Copyright © SHIRO Co., Ltd.

All Rights Reserved.

本誌掲載の写真、イラストレーション、記事、
ロゴの無断転載および複写を禁じます

shiro-shiro.jp
@ shiro_japan
@ shiro_sunagawa
@ maisonshiro_
@ morishiro_

